

会議概要

会議名称	令和7年度第1回世田谷区児童福祉審議会保育部会	
開催日時	令和7年10月17日（金） 18時00分～20時00分	
参加委員	天野珠路（部会長）、普光院亜紀、丹羽克裕（敬称略）	
報告概要	1	<p>児童福祉法等の改正（虐待対応の強化）に伴う実施体制等の整備について</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国のガイドラインにおいて不適切保育という言葉が使われなくなったとのことだが、不適切というグレーゾーンをなくし、虐待と捉えてもらう意図があるのではないか。 ・保護者が園に声をあげやすくするために通報義務は大切だと考える。 ・子ども一人ひとりの心の変化や、子ども同士の関係などをしっかり見て丁寧に保育を行い、専門職が責任をもって職務を担うという基本を厚くしていく必要がある。子どもと関わる仕事を選んでいる自覚と責任を促すような仕組みや、現場を支える職員にエールを送る仕組みが必要だろう。 ・委員の構成に関して、今後の開催頻度を考えると保育の専門家は現在の2名体制から増やすことが必要ではないか。
	2	<p>令和7年4月入園の状況を踏まえた保育の定員確保の取組みについて</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1子無償化は流入だけでなく、これまで在宅子育てしていた区民が参入してくることも想定される。 ・定員弾力化により保護者のニーズに応えることも大切だが、1・2歳児の保育は3歳以上の保育とは全く異なり、子どもが1人増えるだけでも保育の工夫が必要になる。保育室の環境に関しても様々検討が必要になると思うので、施設と意思疎通を図りながらやってほしい。
	3	<p>「こども誰でも通園制度」の実施について</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低年齢児は月齢差が大きく、具体的な保育者の動きなど、保育をどう進めていくか、何が課題になるかを十分確認する必要がある。 ・質がよくなないと子どもに良い成育環境を提供することにならないので、国基準以上に職員体制を手厚くすることは大切だと考える。 ・相当な予算をかけて体制を整備しているので、現場と利用者にとってよいものとなるよう工夫し定着させていかなければならないだろう。
	4	<p>ベビーシッター利用支援事業の導入に伴う乳幼児の安全確保策の検討状況について</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接雇用ではなく業務委託とする場合も少なくなく、制度として見えづらいところがあり、難しいとは思いますがしっかり指導に入っていただきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーシッターは、複数で保育する保育園等よりも一層の倫理観が問われる。子どもの最善の利益を守る観点から、リスクを徹底して把握しながら事業化を図っていただきたい。
	5	<p>区内保育施設における虐待事案の発生について</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の環境や雰囲気が必要となって問題の芽が生じていないだろうか。遊具の種類や数を多くして、子どもが自分で選んで集中して遊べる環境作りが必要である。 ・根本から保育内容や保育環境、保育体制などを見直し、経営者含めたすべての職員が時間をかけて変えていかなければならない。